

大分労発基 1025 第 2 号
平成 29 年 10 月 25 日

関係団体の長 殿

大分労働局長



死亡災害撲滅に向けた緊急要請について

労働行政の推進につきましては、日頃より格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、県下の労働災害による死亡者は、皆様方の取組により長期的には減少傾向にありますが、本年の死亡者は、既に昨年 1 年間の総数 11 人に迫る 10 人となっています（別紙参照）。

労働災害は、本来あってはならないものであり、特に死亡災害については、ご家族に大きな悲しみをもたらし、また、企業としての刑事責任や社会的責任などを問われる場合があります。このため、死亡災害を撲滅するためには、すべての企業が最優先で取り組む必要があります。

つきましては、貴団体におかれても、自主的な労働災害防止活動に取り組んでいただくとともに、会員の方々には、特に下記の取組について周知・徹底いただきますようお願い申し上げます。

記

1 建設業、製造業等の工業的業種

(1) 墜落・転落災害の防止

(高所作業における作業床の設置、安全帯の着実な使用)

(2) 有資格者による車両系建設機械・荷役運搬機械の運転

(3) はさまれ・巻き込まれ災害の防止

(機械設備の安全点検・改修、安全作業マニュアルの遵守)

2 商業、病院・社会福祉施設等の非工業的業種

(1) 交通労働災害の防止

(適正な労働時間管理・走行管理、交通安全意識の周知・啓発)

(2) 転倒災害の防止

(4 S 運動(整理・整頓・清掃・清潔)、安全の見える化運動の推進)



平成29年死亡労働災害発生状況

大分労働局

No.	発生日 時間帯	業種 (中分類)	被災者 性別 職種 経歴年数	事故の型 起因物		災害発生状況
				墜落・転落	建設機械	
1	1月 15時台	土木工事業	男性 土工 5ヶ月	墜落・転落	建設機械	道路舗装工事において、被災者がドラグ・シヨベルで小型締固めローラを吊った際、約3m下の川へドラグ・シヨベルと共に墜落し死亡したものの。
2	3月 14時台	土木工事業	男性 高工 4年	おぼれ	仮設物・建築物・構築物	橋梁の耐震補強工事において、つり足場を橋脚の上端全周に設置する作業の際、被災者が足場作業床から橋梁の桁を掴み橋脚へ乗り移ろうとしたとき、5m下の川へ墜落し死亡したものの。
3	3月 5時台	その他の建設業	男性 作業員 2ヶ月	交通事故	動力運搬機	国道10号の日出町方面から宇佐方面へ向かう下り坂で、被災者の運転する2tトラックが中央線を越え、対向の10tトラックへ衝突し死亡したものの。
4	4月 15時台	その他の商業	男性 作業員 10ヶ月	交通事故	動力運搬機	被災者が大分市内方向へ積載形小型移動式クレーン車を運転し走行していたところ、前方を走行していたトラックが道路脇に停車していた一般車両を避けるため減速したことに気付かず、当該トラックの後方に追突して死亡したものの。
5	5月 11時台	土木工事業	男性 作業員 16年	墜落・転落	建設機械	林道付け替え工事において、8tのタイヤローラーが作業の支障となったため、被災者が当該ローラーを運転して移動させた際、施工中の工事用道路を約80m逸走して約30m下の谷へ転落し死亡したものの。
6	5月 15時台	清掃・と畜業	男性 作業員 2ヶ月	墜落・転落	仮設物・建築物・構築物	市の清掃センターにおいて、被災者と同僚はゴミ収集車に積み込んだ10袋のゴミをピットへ投げ入れ、その後、同僚が同収集車に乗り込みピット際まで後進し荷台を上げ、ゴミをピットに排出したが、被災者から荷台を下す合図がないため捜したところ、被災者が深さ約8mのピットへ墜落し死亡していたもの。
7	7月 10時台	窯業土石製品製造業	男性 運転手 8年	墜落・転落	動力運搬機	建設工事現場において生コン車でモルタルを打設後、被災者が生コン車の後方ステップ(高さ2.65m)上で現場で余ったモルタルをミキサー車に戻す作業を行っていたところ、地上へ墜落し死亡したものの。
8	7月 10時	その他の建設業	男性 作業員 10年	墜落・転落	用具	個人住宅の光ファイバー設置工事において、個人住宅から国道10号線の反対側の電柱に光ケーブルを接続するため、電柱に梯子を掛け登ろうとしたとき、国道を走行してきたトラックに光ケーブルが引っ掛かり、光ケーブルを持っていった被災者が約2m下の道路に墜落し死亡したものの。
9	8月 15時	鉄鋼業	男性 作業員 6年	激突され	乗物	遊園地のジェットコースターのコース上の点検作業を2名で行っていたところ、進行して来たコースターに激突され、1名重症、1名死亡したものの。
10	9月 5時台	小売業	男性 配達員 6年	交通事故	乗物	被災者は新聞配達後、道路を横断して反対車線の路肩に止めているバイクに向かっていたところ、進行してきた乗用車にはねられ死亡したものの。